

水産庁漁業取締船「白竜丸」 小樽港定係歓迎式典を開催！！

令和4年4月23日（土）、小樽港既町岸壁において、水産庁漁業取締船「白竜丸」の小樽港定係の歓迎式典を開催しました。

近年、日本国周辺水域において、外国漁船の違法操業が広域化・巧妙化している中、取締体制の強化を図るため、水産庁は、新たに漁業取締船を建造し、これまで東京港に定係されていた「白竜丸」を、日本海大和堆周辺水域やオホーツク海域での取締りの更なる強化に向け、令和4年4月から小樽港に定係することとしたものです。

約30名の乗組員の中には、北海道小樽水産高等学校や国立小樽海上技術短期大学校の出身者5名がおりますので、この度の小樽港への定係を機に、これらの教育機関や市民との交流がさらに深められるよう小樽市としてもサポートしてまいります。



式典の様子
(中村農林水産副大臣 祝辞)



小樽水産高校・小樽海上技術短大
出身者5名との記念撮影



デモンストレーション（放水銃）



デモンストレーション（取締艇）

(小樽市産業港湾部港湾空港湾業務課)

みなとオアシスるもいPR事業を実施

5月5日（木・祝）に「道の駅るもい」にて、「みなとオアシスるもい」PR事業を実施いたしました。

留萌市では、5月5日を「かずの子の日」と定め、留萌の特産物である「かずの子」を知ってもらうことを目的に「かずの子のマチるもいフェスタ」を実施しており、今年は3年ぶりの開催となりました。イベントでは、かずの子製品の販売のほか、今年の4月29日にグランドオープンした屋内交流遊戯施設「ちゃいるも」の無料開放を実施いたしました。

「みなとオアシスるもい運営協議会」では、イベントの開催に併せ、代表施設である「道の駅るもい」船場公園管理棟2階で「みなとオアシスるもい」のリーフレット、ポケットティッシュの配布及びパネル展示を行い、約270名の方々にご来場いただき、熱心にパネルを鑑賞されている方もおられ、今回、初めてPR事業を開催し、とても有意義な活動だと感じました。

今後も留萌の「みなと」を通じたまちの魅力を感じてもらえるよう、継続してPR事業を実施してまいります。



パネル展



屋内交流遊戯施設「ちゃいるも」

（留萌市地域振興部経済港湾課）

北海道・室蘭港 祝津絵鞆地区クルーズ船等 受入岸壁の供用式典を開催しました！

5月15日（日）、北海道室蘭港においてクルーズ船「ぱしふいっくびいなす」を第1船に迎えて、室蘭市と北海道開発局室蘭開発建設部の共催により標記式典を開催し、地元選出の国会議員をはじめ関係者約70人が供用を祝いました。

同岸壁では、主に鉄スクラップ等の貨物を取り扱ってききましたが、建設から40年近くが経過し、老朽化に伴う岸壁機能の低下が顕著であったことから、既存ストックの活用を図り、大型クルーズ船の受け入れも可能とする岸壁改良を行うこととし、北海道・東北で唯一、世界最大22万トン級クルーズ船の着岸が可能となります。今後、クルーズ船の寄港により背後のみなとオアシスエリア（白鳥大橋記念館など）に加え近隣の観光地とも連携することにより地域の活性化に寄与することが期待されます。



供用式典



祝津絵鞆地区クルーズ船等受入岸壁

（室蘭市港湾部港湾政策課）

第2回苫小牧カーボンニュートラルポート検討会の開催！

令和4年5月20日（金）、北海道開発局と苫小牧港管理組合が共同で事務局を運営している「苫小牧港カーボンニュートラルポート（以下「CNP」）検討会」にて、第2回検討会を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため対面・webの併用方式にて実施し、31の関係団体、民間事業者及び関係行政機関等の皆様に参加いただきました。



苫小牧港CNP検討会の模様

はじめに、苫小牧港管理組合の平澤専任副管理者より、「本日の検討会では、全国の港湾のCNP形成計画の策定状況や民間事業者の先進的な取組みに関する情報等を提供させていただく。本日の検討会が皆様の理解を深める場となり、次回検討会以降の活発な議論に結びつくことを期待したい。」と、開会の挨拶がありました。

続いて、北海道開発局担当者より、全国のCNP検討会の開催状況や先行事例の紹介をしました。また、開発局が実施した基礎調査の結果に基づいて、苫小牧港周辺における温室効果ガス排出量の推計結果や削減目標の設定、目標達成に向けた取組シナリオ案等について意見交換を行いました。

引き続き、脱炭素化に向けた民間企業の先進的な取組の紹介として、日本CCS調査株式会社より「液化CO₂船舶輸送実証」について、また、豊田通商株式会社より「水素・FC関連の取組」について説明がありました。

終わりに、北海道開発局港湾空港部の早川港湾計画課長より、「苫小牧港は国内港湾取扱貨物量が全国1位の港湾であるとともに、フェリーやRORO船の拠点であることから、全国の代表例となりうる。構成員の皆様もカーボンニュートラルに向けた検討を、しっかり行って欲しい。」との挨拶で閉会しました。

第3回検討会は、7月または8月頃の実施を予定しており、構成員へのアンケート調査等を行いながら、CNP形成計画の骨子の作成を行って参ります。
(港湾空港部 港湾計画課)

「港湾の施設の技術上の基準・同解説」の部分改訂について

令和4年4月1日付けで、「港湾の施設の技術上の基準・同解説」について、以下2点の内容に関して部分改訂が行われましたので、ご案内いたします。

1. 使用環境を考慮した防舷材の新たな設計法の導入及び防舷材の試験法について

【基準 中巻p1262-1268、下巻p1811-1815に追記】

防舷材の吸収エネルギーや反力の算定においては、防舷材の製造誤差のみを考慮してきましたが、海外の設計法との整合等から、温度や接岸速度等の使用環境の影響も取り入れた設計法が導入されることになりました。なお、詳細は（一財）沿岸技術研究センターが発行する「ゴム防舷材の設計法と試験法に関するガイドライン」も参照してください。

寒冷地である北海道では、これまでの設計法よりも防舷材の反力が大きくなる場合がありますので注意が必要です。

2. 護岸や係留施設における構造物の背後地盤の土砂の吸い出し抑止のためのフィルター層に関する技術情報の追加について

【基準 上巻p289-291に追記】

裏込石の斜面に敷設する防砂布やマット類がマウンド通過波や潮汐によって破損し、埋立土砂の吸い出しが発生する事例があります。護岸や係留施設の埋立土砂の吸い出しを抑止する方法として、フィルター層の敷設がありますが、今回の改訂では、フィルター材の選定に用いる算定式や使用に際しての留意事項が追記されました。

部分改訂の内容については、以下より確認できます。
（公益社団法人 日本港湾協会のホームページ）

<https://www.phaj.or.jp/book/kowan-seigo20200615.html>

＜問い合わせ先＞

港湾空港部 港湾建設課 設計係長 水口 陽介 （内線5628）
港湾技術係 平尾 隆朗 （内線5648）

港湾行政講座 6時間目！



！港湾運営や維持管理のお金が足りません！

港湾管理をはじめ、行政全般に対する要望等は多様化・高度化してきており、港湾施設の老朽化対策を含め港湾管理者の業務も増え、より多額のお金が必要となっていることと思います。

しかしながら予算確保は困難であり、なかなか増えていきません。

今回は維持管理費獲得の方策として、ネーミングライツをご紹介します。



「ネーミングライツ」って何ですか？



ネーミングライツを簡単に紹介すると、ある施設の「愛称」を付ける「権利」を他者に委ね、対価として一定額の資金を得るものです。

文化施設、スポーツ施設やインフラ施設（ダム等）等、いろいろな施設で実施されています。（例：カナモトホール（札幌市））



港湾の事例はありますか？



仙台塩釜港（港湾管理者：宮城県）にて、港湾緑地等のネーミングライツを実施しています。その内容はホームページにも掲載されています。



国有施設に認められますか？



仙台塩釜港では、港湾緑地（管理者施設）のほか、船だまりを構成する国有港湾施設である防波堤にてネーミングライツを実施しています。



どのような手続きが必要ですか？



「他目的及び第三者使用」の国による承認が必要です。

ネーミングライツ権利者の決定にあたっては、公平かつ透明性を確保した選定手法により選定することが重要です。宮城県もネーミングライツ権利者を公募して選定する仕組みを整えています。

なお、命名するのは「愛称」ですので、管理委託契約は変更しません。



具体的な手続きや留意点等は問合せください。